

# しってるね

## ■ 楽曲データ

歌詞：中川正文 作詞

楽曲：矢田部宏 作曲

発表：京都花まつり奉讃会 1962年

初演：「花まつり」 1962年4月8日 京都新聞ホール

初出：『子ども花まつり』 京都花まつり奉讃会 1962年

管理番号：M1862

## ■ 創作の経緯

京都花まつり奉讃会が制定した2曲の「花まつりの歌」のひとつ。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『佛教讃歌2』 真宗大谷派 1966年

比較資料1：『佛教讃歌 こどものうた』 浄土真宗本願寺派出版部 1973年

比較資料2：『幼児向け仏教讃歌 ほとけのこどものうた』 本願寺出版社 1996年

校訂の詳細：特記事項なし

## ■ 解説

お釈迦さまの降誕をお祝いするつどいを、灌仏会（花まつり）といいます。広く仏教徒の間で行われていた行事で、江戸時代の資料でも4月8日に灌仏会をおつとめしていたことが確認できます。お釈迦さまのご誕生をお祝いすると同時に、阿弥陀さまからいただいたいのちの尊さを、ともによるこぶ集いといえるでしょう。

## ◆ 作詞者について

作詞の中川正文（1912～2011）は、奈良の本願寺派寺院に生まれた児童文学者で、住職も務めました。戦前から同人誌で童話や児童小説を発表し、1949（昭和24）年に龍谷大学文学部を卒業。京都女子大学で教鞭を執り、同大学の人形劇・影絵の組織「子どもの劇場」を主宰しました。晩年は、大阪国際児童文学館（現・大阪府立中央図書館国際児童文学館）の理事長・館長を務めました。

### ◆詞について

「子ども花まつり」という副題が示す通り、平明な言葉で、誰にでも花まつりの意味が分かるように書かれています。

### ◆作曲者について

矢田部宏は、1934（昭和9）年、京都府生まれ。京都市立音楽短期大学（現・京都市立芸術大学音楽学部）を卒業後、平安女学院短期大学（現・平安女学院大学短期大学部）教授を務めました。仏教讃歌では、《どこにもひかりが》《数珠の歌》などの作品を遺しています。

### ◆歌い方について

明るい3拍子の曲です。4小節をひとまとまりと感じ、リズムに乗って軽やかに歌いましょう。後半では、拍子が2/4に変わり、テンポもゆっくりになります。

①5小節目に「風にささやきかけるように」という指示があります。暖かい春風を思い浮かべて歌い始めましょう。

②7小節目は、「ド」→「ラ」の跳躍の音程を正確に。「ラ」の音が低くならないように。

③9・10小節目は、「とおいインド」と「い」の母音が連続します。「インド」の「イ」は軽く言い直しましょう。

④25小節目からは、ゆっくり語りかけるように歌います。連続する8分音符がぶつぶつと切れないように、なめらかに。

### ◆音源

CD『ののきまといっしょ ほとけのこどものうた』に収録されています。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 50（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第177号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.